

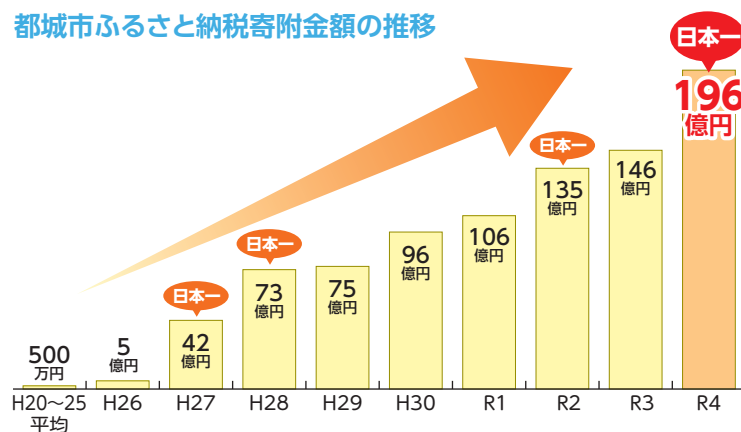


対外的PRのさらなる推進

市では「肉と焼酎のふるさと・都城」を対外的にPRするため、さまざまな取り組みを行っています。今回は、本市を「知ってもらう」「来てもらう」「買ってもらう」ための取り組みを紹介します。

◎問い合わせ ふるさと納税局 ☎23-2452
みやこんじょPR課 ☎23-2615

都城市ふるさと納税寄附金額の推移



ふるさと納税
平成26年に返礼品を「肉と焼酎」に特化して大幅リニューアル。市内の返礼品提供事業者と一丸となって取り組んできた結果、全国で唯一、9年連続寄附受入額トップ10入りを果たしました。また、平成27・28年度、令和2・4年度の4回日本一になりました。
寄附金は、子ども支援や環境支援、人口減少対策支援など8項目で活用されていて、地域を元気にする貴重な財源になっています。

ふるさと納税



ミートツーリズム
都城市が誇る「肉と焼酎」に「meet「出会うこと」ができる「ミートツーリズム」。
「本物」の肉と焼酎を堪能できると参加者は年々増加。令和4・5年度は3万5千人を超える人が本市を訪れました。

関之尾公園リニューアル
「スノーピーク都城キャンプフィールド」として生まれ変わった関之尾公園。アウトドアメーカーの「スノーピーク」が指定管理を担う公園内には、100区画のキャンプサイトやコテージ棟などを備えています。
今回のリニューアルで「通過型観光」から「滞在型観光」への転換が期待されます。

関之尾公園リニューアル



「道の駅」都城NiQ.L.L
令和5年4月22日のプレオープン以降、県内外から多くの来場者が訪れている「道の駅」都城NiQ.L.L。年間来場者数は14万6千1674人と目標の100万人を大きく上回りました。
本市が誇る「日本一の肉と焼酎」を中心とした地場産品の販売をはじめ、地域連携・賑わい創出を図るためのイベントを多数開催しています。また、県内で唯一の「防災道の駅」に選定され、大規模災害時における広域的な防災拠点としての役割も担っています。



「道の駅」都城NiQ.L.L



デジタル化の恩恵を市民の皆さんへ！

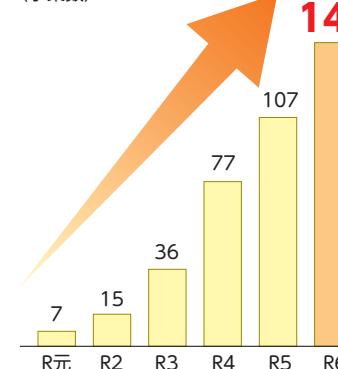
市では、令和元年8月に都城デジタル化推進宣言を行い、組織・人材・予算を大幅に拡充して、デジタル化を強力に推進しています。今回は、マイナンバーカード普及促進や市民の利便性向上に向けた取り組みなどを紹介します。

◎問い合わせ デジタル統括課 ☎23-2156

デジタル化の状況

国のデジタル化の方針を決定する「デジタル社会構想会議」の構成員に市町村代表として選出された池田市長がCDO（最高デジタル責任者）となり、全庁的にデジタル化を推進。本市が取り組むデジタル化関連事業は年々増加しています。令和6年度は142事業を実施していて、デジタル化の恩恵を実感してもらうようにさまざまな取り組みを進めています。

デジタル関連事業数の推移 (事業数)



マイナンバーカードの普及促進

本市のデジタル化推進の原動力である「マイナンバーカード」。デジタル社会のインフラになると捉え、普及促進をいち早く進めました。また、カードの利便性向上の取り組みに加え、タブレット端末を使用したオンライン申請のサポートや、市役



所に出向くことやインターネット申請が難しい人を対象に、1人から出張して申請を受け付ける「マイナちゃんカー」を導入しました。その結果、保有枚数率は88・9割（令和6年4月末現在）となり、人口10万人以上の市町村で全国1位となっています。
これらが評価され、令和5年4月には市長が総理官邸を訪問し、マイナンバーカードに関する取り組みを岸田総理大臣に説明。総理からは「引き続きトップランナーとしてデジタル化を進めてほしい」と高い評価を得ました。



市民の利便性向上に向けたデジタル化の主な取り組み

【行政手続きのオンライン化】

約2400ある行政手続きのうち、1500を超える手続きをオンライン化。今年度末までに、原則全ての行政手続きをオンライン化します。（従来通り窓口での手続きも可能）

【書かないワンストップ窓口】

出産や婚姻、引っ越しなどの一連の手続きが原則署名のみで完了します。職員がシステムを操作するため、デジタルに不安のある人も簡単・便利です。



【コンビニ交付サービス（住民票などの各種証明書）】

市役所の開庁時間を気にすることなく、窓口の半額以下で取得できます。利用率は6割を超えています。



【救急業務の迅速化・円滑化（実証事業）】

傷病者の健康保険証利用登録済みマイナンバーカードを活用し、通院履歴や服薬情報などを閲覧。救急業務の迅速化・円滑化を図ります。



スポーツ団体の合宿誘致

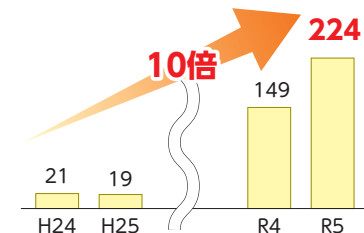
●プロスポーツチームなどの キャンプ誘致

- ・読売巨人軍（2回）
- ・千葉ロッテマリーンズ（令和7年実施予定）
- ・プロ野球自主トレ（柳選手、松原選手、周東選手など）
- ・Jリーグ FC東京（12回）、ツエーゲン金沢（9回）、栃木SC（11回 令和4年まで）、テゲバジャーロ宮崎（3回）

●都市スポーツコミッション(MSC)発足

令和4年4月に設立したMSCは、市と連携してスポーツキャンプ・合宿の誘致活動を行うとともに、国スポ・障スポ大会に向けた各競技団体のスポーツ力向上に向けた取り組みを実施しています。

●スポーツキャンプ・合宿の 受入団体数の推移(件)



地域のスポーツ力向上の 取り組み

●スポーツ推進委員による地域 スポーツ教室の開催

生涯スポーツの推進を図るため、各地区のスポーツ推進委員を中心に、地域スポーツ教室を開催しています。

●市内アスリートの活躍支援

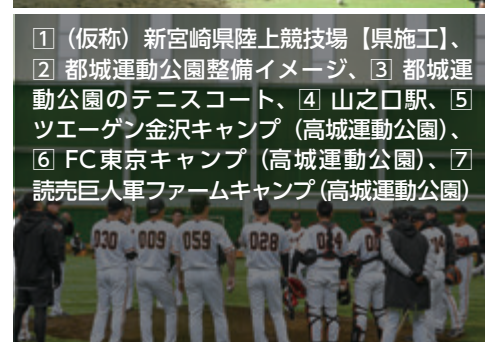
各種スポーツ大会で、県または九州代表として参加する個人や団体に対して、補助を行っています。

スポーツで築く地域活力



市では、健康増進や幸福度向上、経済波及などスポーツの持つ価値に着目しスポーツ施設の整備をはじめさまざまな取り組みを行っています。今回は、スポーツを通じて地域活力を創造するための市の取り組みを紹介します。

◎問い合わせ スポーツ政策課 ☎23-9546
国スポ・障スポ推進課 ☎23-2696



①(仮称)新宮崎県陸上競技場【県施工】、
②都城運動公園整備イメージ、③都城運動公園のテニスコート、④山之口駅、⑤ツエーゲン金沢キャンプ(高城運動公園)、
⑥FC東京キャンプ(高城運動公園)、⑦読売巨人軍ファームキャンプ(高城運動公園)

スポーツ環境の整備

●山之口運動公園

令和9年に開催される国スポ・障スポ大会のメイン会場となる本施設。地域のスポーツ振興と防災力向上の拠点として、令和7年度の供用開始に向けて、県と共同で陸上競技場などの整備を進めています。本整備により、全国レベルの各種大会の開催が可能となり、交流人口の拡大や地域活性化が期待されます。また同運動公園は、大規模災害発生時の後方支援拠点としての役割も期待されています。

●山之口駅および周辺エリア

国スポ・障スポ大会の開催に向けて、まちの玄関口・シンボルとなる山之口駅および駅前広場を、多くの大会参加者を迎える空間としてリニューアル。また、本駅と山之口運動公園を結ぶエリアの一体的な整備により、まちの魅力を向上させ、交流人口の拡大や賑わいの創出を図ります。

●都城運動公園

「プロ野球キャンプに向けた整備」

令和7年から本施設で、千葉ロッテマリーンズ春季キャンプ(2軍)お



よび秋季キャンプ(1軍・2軍)の開催が決定。プロ野球キャンプ実施に備えて、屋内競技場やブルペン、サブグラウンドに加え、野球場外側には防球用のフェンスや市民が多目的に利用できる芝生広場を整備します。また、屋内競技場には備蓄倉庫を併設し、防災施設としても活用します。

【国スポ・障スポ大会に向けた整備】
国スポ・障スポ大会の正式競技であるソフトテニス成年男女の会場として、テニスコート16面や駐車場などを整備します。